

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第74号(201509)

発行 竹田 幸男



## 松愛会寝屋川支部長来訪

8月12日の8月例会には山元支部長、吉岡地区委員がご出席頂き、同好会の活動を参観して頂きました。

## 例会の窓

### 平成27年8月例会

日時：平成27年8月12日(水)

13:30 産業振興センター

5F 会議室(小)

出席者：天野 新井 小笠原 小林 佐伯 竹下  
竹田 谷(50音順・敬称略)

ゲスト：松愛会寝屋川支部 山元支部長・吉岡地区委員  
欠席者 1 名

## 例会次第

### 1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報筆者 小笠原さん

(2) 松愛会寝屋川支部 40 周年記念行事について

・記念行事と同好会展示(28年1月30日(土))

モニターを使って同好会のPRをしたいと考えている。他にも同じ考えのところがあるので、音の干渉をどうするかが課題。

・会員作品展(28年1月8日(金)～11日(土))スタジオを借りてもらって作品映写をしたいと申し出たが、部屋は借りられるが、メインホールを他の団体が使っているときは音が出せないとのこと(防音設備完備のはずだったが)。ヘッドホンで聴いてもらうか、音がなくても鑑賞できる作品限定にするか、課題。

(3) 7月合同例会の結果

・レクリエーションを兼ねて光善寺・楽寿荘で7月19日(日)開催した。

11:00 現地集合、竹下さんの「巨木探訪」、映像寝屋川の西田さん

「拝啓 イタセンパラ殿」の2作を大阪アマチュア映像祭出品作品に決定、その後食事を挟んで作品映写や懇談が続いた。

(4) 今年の大阪アマチュア映像祭出品作品

・竹下作品、西田作品を7月合同例会で決定した。

(5) 市民文化祭作品は、9月例会で締め切ります。

(6) 9月12日(土)映像北大阪との合同例会

・13:00 守口市中央公民館4F 竹田さん、新井さん、谷さん、佐伯さん出席

(7) 10月5日 文化連盟会員親睦研修会参加者募集(新井さん参加。)

### 2. 映写・研究発表

(1) 小笠原さん 「大阪キタそぞろ歩き」 9分

・梅田スカイツリーに何度も行って撮影された作品。

・太閤さんの言葉でナレーションが入ったのは面白いが、途中からだだったので、初めからやればもっといいのでは。

(2) 小笠原さん「映像での質問」

- ・唄の背景に、歌詞に関係がある草花を複数並べて作品を作ろうとしたが編集タイムラインの本数が増えるので画面が狭くなる。タイムラインの本数を減らすことができないか、と映像を提示して質問があった。色々意見が出たが、結論は出ず。

### (3) 竹下作品「巨木探訪」の時間短縮過程の検証

- ・10分数秒の作品を10分以内に短縮する。1%速くする必要がある。「イ」の音でいうと440Hz（ヘルツ）が444Hzぐらいになり、音楽家なら気が付くが、一般の人にはわからないだろうと言うことを前提に、ただ全体の速度を速めるとナレーターには気付かれると思うので、音楽だけ編集ソフトの「速度」を使って1%早め、映像は不要な部分をカットして9分58秒に修正した。映写して違和感はなかった。（我々は音楽家ではなかった！？）

4. 来月の開催日 9 / 9 (水)



## 欧州視察旅行

(遊び心でまとめた・不謹慎かな)

小笠原 邦雄

社内の営業部門から、「金融機関にPC関連商品売り込むため、次回の視察旅行では金融機関を対象にしたい」との打診があった。「ついては生保にも声がけするので、共済会もぜひ参加協力願いたい。旅行の企画は弊社で、費用は参加会社の負担である」と言う。

良からうと言う事になり、担当者からコースについての相談をされたので、「東欧・ライン下りが入れればいいね」と言うと、出来るだけそうしようとの返事であった。

半年後に、視察旅行の企画が出来たと報告があった。チェコとライン上りを組み入れ、「ビッグバンに学ぶ」をテーマにしたとのこと。専務に説明するので同行して欲しいとの事だったが、私が同席すれば、専務は「自分が行きたい」とは言いにくいだろう」と考え、断った。

しかし結局、専務に呼ばれ専務室へ。

「お前これに参加せよ」

「行かない」

「なんでや」

「(定年まで)3年しかない。お返しできない」

「仕事をした褒美や」

「いつも仕事をしてない、と言われてている。行かない。このコース表には載っていない 遊びも一杯ある」

「判つとる。いいから行け」

「そこまで言われるなら、行かさせてもらいます」で、一件落着。

現地9泊、機中2泊の長旅である。相談の上、S生保の法人担当を団長に決定。機乗して驚いたのは、ファーストクラスだった事。旅行の目的からすれば当然だが、お陰で往復とも快適な機中泊であった。尤も欧州内の移動では、カーテンを引くだけの区別。食事はちょっと良かったかな？

最初は、ロンドン2泊。今回の旅の目的「ビッグバン」について学ぶ。イギリスの状況は大層厳しかったらしい。「弁当はリンゴ一つ」と言った状況も。サッチャー首相は力強いリーダーシップで経済に、ウインブルドン方式を導入、イギリスと言う「コート」で海外企業に思い切った「プレー」をさせた。英語が母国語である事もあり、大成功を納め、イギリスは蘇ったそうである。

英語と言えはこんな笑い話があった。ホテルで「シャツをクリーニングできるか？」と電話をすると、相手が「イヤー、イヤー」と言う。「何だ、嫌だと？」と思っただが、「そうか！Yearか」と納得。

もう一つ。団長の部屋に電話を入れて、こんな冗談をやった。

私「Is this speaking Mr. ?」(〇〇さんですか?)

団長「Oh, Yes」(ええ、はい。)

私「This is Scotland Yard. Have you passport?」

(スコットランド・ヤードです。パスポートはお持ちで?)

団長「Yes, I have.」(はい、持っています。)

私「Really?」(本当に?)

団長「Of Course.」(勿論です。)

私「Very Good. Ogasahara speaking」(大変結構。こちらは小笠原です)後で団長曰く、「気が動転して頭が真っ白になった！」と。失礼しました。

英国に赴任していたN君に、一度は行って見たかった「パブ」の案内を依頼すると、快諾し、夕方迎えに来てくれた。「まずはハローズ百貨店に行こう。デコレーションが実に綺麗だ」との事。ところが3日前に事故死したダイアナ妃の喪に服するとの事で、デコレーションは自粛中。弔問の列が出来ており、我々も弔意

を示すため参列した。参列者の中の或るご婦人は、「ヨークシャーから来たのよ」と言っていた。

(その時、嵐が丘の事を思い出したので間違いはない)我々が「日本からやってきました」と告げると、心からの感謝をしてくれた。

帰りに憧れのパブに入る。酒場と言いつつ、コーヒーも売っている事を知り、暫し異国情緒を味わう。居酒屋風喫茶店?その逆かな?オックスフォード大・アメフト部員を想像させる屈強な若者共が、応援歌らしきものを床を踏み鳴らしながら歌っていた。パブと言うのは、都会の片隅の憩いの場なのだなと、微笑ましく思った。案内してくれたN君には感謝したい。

翌朝、6時前に散歩に出た。「公園の向うは何?」と日本人らしき夫婦に尋ねると、「バッキンガム宮殿」と言う。目と鼻の先であった。宮殿の前には、50m x 400m位に、花束が一杯に献花されていた。広場には移動式のパラボラアンテナが林立。

人はまだ小生のみ。昨日はホテルの近くで、「海賊国にしては何と花が好きな人が多いのだろう」と、おどけていたが、今となっては、小生も静かに心の中で手を合わせた。

大英博物館にも行く。さすが世界の海賊国、世界各地からの没収品の多さに驚く。絵画はキリスト教についての知識がなければ、理解出来ない事が良く判った。セビルロードを経てホテルに帰る。思う存分歩いた。

次は、ドイツ・フランクフルト2泊。マイン川付近の通りと一体化した憧れの食堂で食事を楽しんだ。通りを通り過ぎる夫婦連れ、「ここで食事は?」と、ご主人。奥さんが「ノー!」。だが、暫くすると引き返し、小生のすぐ後ろの席に。傾合いを見て、「どこから来られたのですか?」と尋ねると、「フィンランドです」との返事。ご主人に「奥様は大変お綺麗で、素晴らしい方ですね」と褒めると、奥さんは「そんなこと、恥ずかしいわ」と言う風情だったが、ご主人はにこにこ顔に。楽しい一時であった。後で街中で再会、「奥様と握手しても?」と、了解を得て力強く握手。「ボンボエージ、良い旅を!」、北欧の女性の心の温かさが伝わる握手であった。

ドイツ銀行では、デビットカードの流通状況・問題点等について講義してもらった。デビットカードについては、知識がなく、参加者の方に聞いて理解できた。現金をカード化したもの。EUでは人の移動は自由になっており、デビットカードの普及も目指しているとのこと。日本では、クレジットカードで全く問題ないと思った。

ライン上りの終点。町の名は失念。木彫り時計の有名な街。食事をしていると、

「ハッピーバースデー トゥー ユー！」と歌声が。そして、若いドイツ女性がこちらに向かってくるのではないか！これはどうした？と、思った次の瞬間、まともにキスを受けた。実に素早い早業であったが、その一瞬だけをとらえれば、恋人同士の様に見えたかも知れない。粋なイベントであった。

次は、チェコ2泊。空港出口ゲートでは、銃で武装した女性が警備していた。チェコ市内を観光、印象に残ったのはヴルダヴァ川・カレル橋。ソ連の戦車が侵入した大通り等々。通訳は日系人3世。チェコの銀行で話を聞いた。大きな水害で、経済は苦境にあるようだ。コロナの価値も低下しており、日本との関係強化を図りたいとの思いが痛切に感じられた。通訳は観光は得意？ 経済用語は苦手らしく、適当なところで、ムニヤムニヤ。話し手は次の話に行ってしまう、理解が難しく困った。まあ、仕方がないか。

その後、秋風の吹く21時頃のヴルダヴァ川河畔を、団長と二人で散策。ベンチに若い女性が座っている。

「どこから来たの？」

「アメリカよ」

「どの州から？」

「テキサス」

暫く会話を楽しんだ後、「ホテルのベッドは大きいし、団長と一緒に寝て、この女性に一部屋明け渡そうか？」と二人で話したが、当然ながら、拙いと断念。

チェコ人とは、言葉では全く話が通じない。夜中の0時近くだったが、売店の若者が「柔道！」と声を掛けてきた。新聞紙を丸めて棒状にし、「剣道」と声を掛けながら、2～3回面打ちを食らわせた。若者は興味深々で、眼と眼で情報交換しながら、しばらくついてきた。「可愛い奴だったなあー！」と、私。「はらはらしましたよ！」と、団長。

「四十年近く人のお世話をしてきました。体や目の表情から、心情は読み取れていた積りです」と、私。団長は納得していなかったかも知れない。

次は、ベルギー1泊。私は中学2年から高校卒業まで、カソリック教会に通っていた事がある。田舎町の中で、外国の空気を感じられる場所だった。神父は、ボサールとセルクのお二人。お二人ともベルギーご出身。「オガサハラ様ですか？」「違います。オガサハラです」何回繰り返しても発音は直らず、肩をすぼめて降参。以降は、良くして頂いた。父から「成人になるまでは洗礼は駄目。その後は自由に」と言われたが、結局、何回も話は聞いたものの、洗礼を受ける心情には至らなかった。

ということもあり、何か心惹かれる「ヴリュッセルの街」であった。証券取引所でEU内の株取引についての話を聞いたが、宮殿の様な建物には驚いた。石の

文化との違いに暫し思い浸った。

最後の訪問国、フランス2泊。ホテルはオペラ座の近くであった。まず、ルーブル美術館へ徒歩で出かけた。入り口が判らず、通用口の様な所から入った。一階ホールの真ん中に上に上がる階段があったが、何故か「あの階段は昇らない」と決めた。実は、その場所が正式な出入口だったと後で知った。我ながら、変な拘りを持ったものである。モナリザにはすぐに会えた。通用口から出て、コンコルド広場に行く途中、遠くにエッフェル塔が見えていた。少し歩くと正面に凱旋門が。シャンゼリゼに吹く風が心地良かった。

私にはノートルダム寺院を訪問したいと言う、強い希望があった。シャンゼリゼの真ん中で、凱旋門の写真を撮り、地下鉄乗り場に着いた。切符さえ買えば、改札はフリー。英語もままならないのに苦労した。地下の暗いところで、目だけを光らせていた黒人が一番頼りになった。駅の行き先案内版の表示は、それぞれの終点駅名ということも判った。間違えないように、長い方、短い方で乗り間違えないようにした。ノートルダム寺院は、改装中であったが、やっと出会え、感動に浸ることが出来た。

お次はセーヌ川遊覧。正装しての乗船が規則だ。エッフェル塔では、電光掲示板での20世紀のカウントダウンが始まっていた。遊覧船を降りた直後、道端の花束が目に入った。ダイアナさんが、車の事故で亡くなられたトンネルの横であった。バッキンガム宮殿の花束、ウエストミンスター寺院の葬儀の準備、喪に服すハローズ百貨店、そして今回の終焉の地まで、全てに接した。強い縁を感じ、心からご冥福をお祈りした。

そして、最後の最後に大失敗。ベルサイユ宮殿へは一人では無理なので、営業の人と行った。地下鉄の乗換駅で下車し、バスに乗車したのだが、その人は間違いに気づき、その場で、神業のごとく素早く多めの現金を渡して2人で下車。素晴らしい判断力、決断力に感服した。その後、無事に広大な宮殿に出会え、威容に接する事が出来た。帰りの地下鉄駅の乗り換え時に、「次の列車はオペラへ行くか？」と駅員に確認した上、相手をせかして飛び乗った。

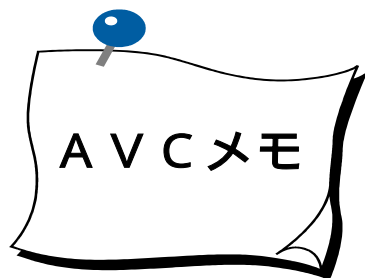
暫くして、「風景が違う」と彼。そんな事はないだろうとこちらは気にもしなかったが、彼が「やっぱりおかしい」と言うので、「フランス語が少し話せるのだから、車掌に聞いてみてよ」と私。すると、この列車は、山手線で言えば反対方向回りの列車だと判明。このままでは帰りの飛行機に乗れなくなってしまう。彼は車掌と念入りに話し合い、途中の駅で快速列車に乗り換えようと言う事になった。それでも、ホテルの出発時間に

遅れることは確実。乗換駅では、車掌が我々が無事に乗り換えるまで見守っていてくれた。

今度は、ノートルダム寺院に苦勞して行った経験を活かす番だ。オペラに着いた、昼なお暗い駅だ。走れ、出口に向かって。一秒の無駄もなく、一目散に。ガラッと扉を押し開き、オペラ劇場が目に入った。ひたすらホテルに向かって、走って、走って、走りまくる。まだ待ってくれていた。助かった。申し訳ない事をしでかしたが、何とか、ぎりぎり解決出来て安堵した。人の能力には限りがない事を、この経験で知った。注意力、判断力、処理能力に優れた超人的な人がいる事を。

以上の様な事を、現代の人の能力では、文章には出来ても、脳の映像記憶素子を外部の記憶素子に書き写す様な事は出来ない。人間の脳細胞は時間と共に破壊されるそうだから、バックアップは必要だろう。バックアップの仕方は、バックアップに無い物を追加上書きする方法でなければならない。

バックアップ脳細胞から必要データを取り出して 編集作業が出来れば良いのだが、有害な部分、嫌な記憶、不利な記憶、隠しておきたい記憶等々をどうするかは、大きな問題であろう。しかし、人間の英知で何とか出来るに違いない。楽しみに待っていよう。尤も、待つだけの時間があるのかね、との、神の声が聞こえたような、聞こえなかったような...



## 「被写界深度」

竹田幸男

写真関係の話題が続いたので、引き続いてもう1回。

被写界深度（ひしゃかいしんど）とは、写真の焦点が合っているように見える被写体側の距離の範囲のことです。ピントを合わせた物体の前後の物体が、ほぼはっきりと写って見える範囲をいいます。前回、前々回には「焦点深度」という言葉を使いましたが、これは正確に言えばフィルムとか撮像素子の側で焦点が合っているように見える範囲のことです。出来上がった写真で言えば被写界深度の方が正しいということなので厳密には使い分ける必要があります。

図1は手元にあった古い一眼レフ、キャノンAE-1に装着したキャノンレンズF1.4 50mmの距離目盛りの部分です。





図1 距離を1 mに合わせたとき

絞りをF 4に絞ったときに、実用上ピントが合って見える範囲なのです。1 mの距離を撮影するとき、F 4では非常に狭い範囲しかはっきり写らないことがわかります。このレンズの開放絞りはF 1.4なので、開放絞りにして近い距離で撮影すれば、もっと狭い範囲しかはっきり写らないということが想像できます。たとえば言えば顔を斜め右に向けている人の左目にピントを合わせたとき、右目はぼけている、という画像（映像）が撮影できます。

橙色の縦の線の左右両端の「16」は、F 16に絞ったときは、この範囲がはっきり写ると言うことで約0.85 mから1.2 mの範囲がはっきり写ることになります。



図2 距離を5 mに合わせたとき

ものは、すべてはっきり写る、ということになります。スナップ写真を写すときは、このような距離に設定したものです。

この結果からわかることは、絞りFを絞る（数字を大きくする）ほど、はっきりと写る範囲、すなわち被写界深度は広く（深く）なり、また被写界深度の幅は

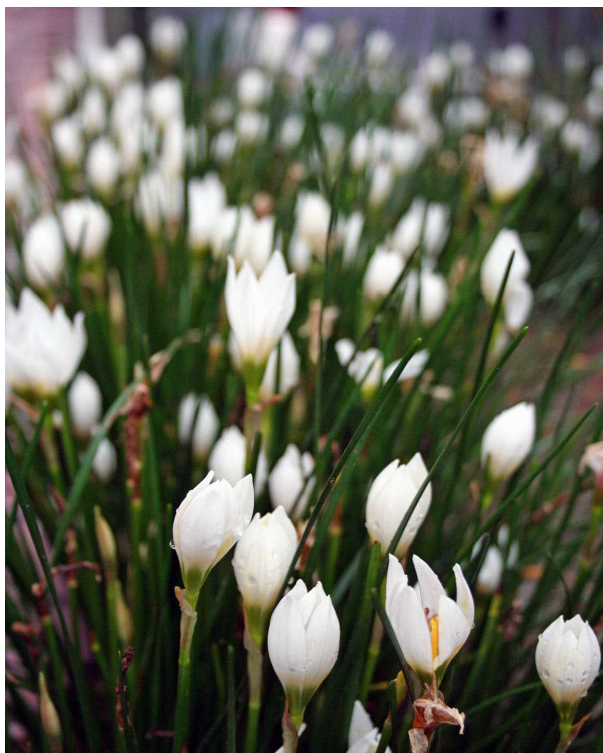
図の上から2列目がメートルで示した距離目盛りの数字で、3列目の橙色の縦の線に、距離の数字が一致した所がピントが合った位置を示し、いま、この橙色の縦の線に、距離を示す2列目の橙色の数字「1」即ち距離1 m（メートル）に合わせているところです。橙色の縦の線の左右に「4」の文字が見えますがこの2つの「4」の間が、

図2は同じレンズを距離5 mに合わせたところです。すると目盛りから読み取れるのは、上から3列目の左右両端の数字16に対する距離目盛りを見ると、手前は2.5 mから、遠くは無限遠（∞）までが、はっきり写ることになります。即ち距離5 mに合わせ、絞りをF 16にすれば2.5メートル以上の距離にある

ピントの合った点から手前側は狭く、遠い側は広い、とすることになります。

絞りやピント合わせ、と言っても、今時の自動露出、自動焦点のカメラでは撮影者は絞りや距離は操作なしに撮影していることが多いので、撮影に際しては、こういう結果は全く意識していない人が多いと思います。ここではスチルカメラの例で説明しましたが、ビデオカメラでも原理は全く同じです。

以上のことからわかることは、明るい場所で撮影しているときは自動的に絞りが絞られ（Fの値が大きくなり）、被写界深度は広くなっており、ピントの合う範囲が広くなり、目的物以外のものもはっきりと写りやすいということです。



逆に暗いところで撮影しているときは自動的に絞りが開かれていますので（Fの値が小さくなり）被写界深度が狭くなっているため、ピントの合う範囲が狭くなり、目的物以外はぼけやすくなっていることを覚えておいて頂きたいと思います。また同じ明るさでも近くのを写すときは被写界深度は狭くなり、目的物以外はぼけやすくなり、遠くのを写すときは、被写界深度が広くなり、目的物以外もぼけにくくなります。

図3 被写界深度の実例

キャノン イオスキスデジタルN  
F = 4.5 1 / 250秒 f = 31mm

図3に至近距離にピントを合わせた時の被写界深度の実例を示します。図3では、絞りを開き、その分シャッタースピードを上げています。最も手前の花にピントが合っており、少し後ろの花もぼけており、遠くの花はもっとぼけて見えません。被写界深度の狭い画像になっています。

また、レンズの特性として焦点距離（f）の短いレンズほど被写界深度が深く（広く）、焦点距離が長いと被写界深度が浅く（狭く）なりますので、ズームレンズでは、焦点距離の短い方（ワイド側）よりも、焦点距離が長い方（望遠側）が、被写界深度が狭くなります。すなわち前回も言ったように情緒的な画像、映像が撮影できることになります。

以上のようなレンズの特性を良く理解した上で撮影すれば、ただ写っていればいい、のではなく、より奥深い映像表現ができるのではないかと思います。